

環境調査結果のお知らせ

令和6年8月28日11時から浦ノ内湾の環境調査を実施しました。

概況

検鏡の結果、魚類に対して有害なカレニア・ミキモトイが最高で 56cells/mL、シャットネラ属が最高で**102 cells/mL**、タカヤマ属が最高で**98,000 cells/mL**確認されました。福良でタカヤマ属が濃密な赤潮となっており、養殖漁場にも拡散しています。当該プランクトンは魚類にとって有害であり、**10,000 cells/mL**以上で漁業被害が発生する可能性があります。また、シャットネラ属も再び警戒基準値である**100 cells/mL**に達していますので、十分注意してください。

海や養殖魚、貝類の状態に不安や変化を感じた時は、良く洗ったペットボトルに海水を汲むなどして、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

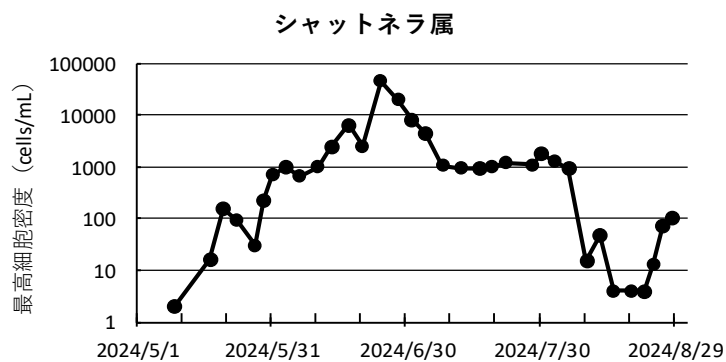
調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度 (m)	水温 (°C)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	カレニア・ ミキモトイ	シャットネラ 属	タカヤマ 属	珪藻
A 鳴無 (2.8m) 【11:43】	0	29.4	21.4	7.9	0	0	11	0
	2	32.1	30.7	7.2	1	102	260	60
	5	30.1	31.4	0.4	12	53	8	20
	底層 8.5	29.1	31.4	0.0	0	2	0	0
B 中学校前 (3.2m) 【11:52】	0	30.1	24.7	7.6	0	0	850	60
	2	32.0	31.1	7.9	1	5	440	180
	5	29.9	31.5	2.0	3	24	3	140
	10	29.1	31.5	0.1	0	0	0	40
	底層 11.5	28.9	31.5	0.1	0	0	0	40
C 目ノクソ (3.1m) 【12:06】	0	30.6	27.9	9.9	0	0	8,400	60
	2	31.6	30.5	9.2	0	23	2,750	520
	5	29.9	31.5	2.1	32	60	60	180
	10	29.2	31.6	1.7	1	0	0	20
	底層 13.5	29.0	31.8	2.2	0	0	2	7
D 光松 (0.9m) 【12:44】	0	30.6	24.5	12.4	0	3	77,000	60
	2	31.5	30.7	10.5	1	34	15,900	260
	5	30.1	31.5	3.7	56	17	40	320
	10	29.6	31.7	2.9	0	1	40	160
	底層 16.5	29.2	32.0	3.9	0	0	0	180
E 大鹿 (1m) 【12:55】	0	30.6	28.3	12.7	0	6	15,000	20
	2	31.1	30.9	10.9	0	41	13,800	80
	5	30.0	31.5	3.6	56	4	30	160
	10	29.6	31.7	2.9	0	0	0	160
	底層 16.5	29.2	32.0	3.6	0	0	0	20
F 水試小割前 (2.6m) 【13:08】	0	30.3	29.9	9.1	0	18	5,300	40
	2	30.3	30.3	9.1	0	18	5,100	100
	5	29.7	31.7	4.8	19	5	12	60
	底層 10	29.4	31.7	1.8	0	0	0	120

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度	水温	塩分	溶存酸素	カレニア・ ミキモトイ	シャットネラ 属	タカヤマ 属	珪藻
	(m)	(°C)		(mg/L)				
G 福良 (2.9m) 【12:24】	0	29.6	14.6	11.9	1	0	98,000	0
	2	32.0	30.5	10.7	0	71	15,300	80
	5	29.8	31.5	0.3	2	0	80	100
	底層 10	29.1	31.6	0.7	0	0	0	20

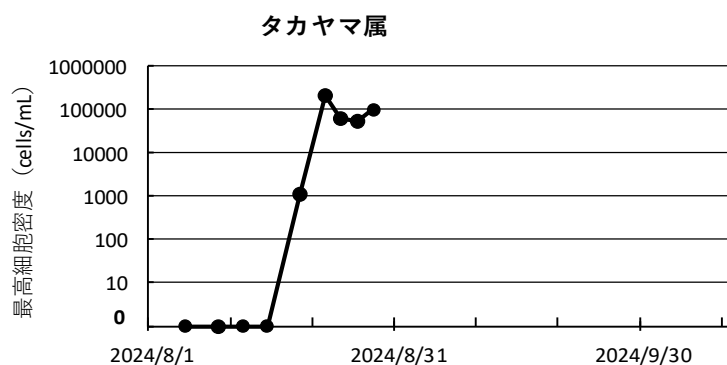
令和6年度 浦ノ内湾におけるカレニア・ミキモトイの最高細胞密度の推移

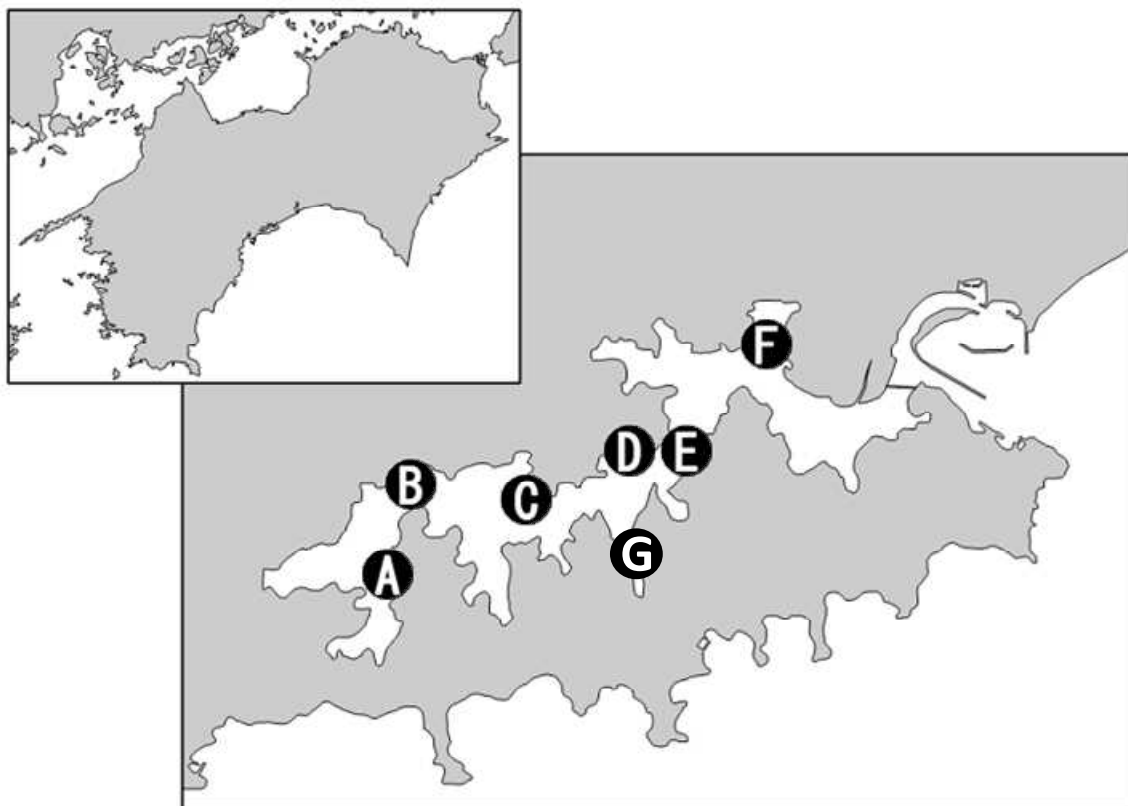


令和6年度 浦ノ内湾におけるシャットネラ属の最高細胞密度の推移



令和6年度 浦ノ内湾におけるタカヤマ属の最高細胞密度の推移





- A: 鳴無
- B: 中学校前
- C: 目ノクン
- D: 光松
- E: 大鹿
- F: 水試小割前
- G: 福良

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
<i>Karenia mikimotoi</i> (カレニア・ミキモトイ)	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5~8月	6~8月	—
<i>Chattonella</i> spp. (シャットネラ属)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6~8月	—	—
<i>Cochlodinium polykrikoides</i> (コクロディニウム・ポリクリコイデス)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—	2~4月	5~6月
<i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ)	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3~12月	4~8月	4~11月
<i>Dictyocha</i> spp. (ディクチオカ属)	魚類等のへい死	—	5,000 cells/mL	6~7月	4月	—
<i>Takayama</i> spp. (タカヤマ属)	魚類等のへい死	—	10,000 cells/mL	8~9月	—	—
<i>Heterocapsa circularisquama</i> (ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマ)	二枚貝のへい死	—	500 cells/mL	8~11月	—	—
<i>Alexandrium</i> spp. (アレキサンドリウム属)	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—	1~4月	3~5月
<i>Gymnodinium catenatum</i> (ギムノディニウム・カテナータム)	二枚貝の毒化	—	1 cell/mL	—	—	2~7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。